

介護や高齢者福祉に関する意見交換会のまとめ

①目的

新しい高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（平成 30 年度から平成 32 年度）の策定にあたり、介護や高齢者福祉に携わっている方から幅広く意見を伺い、策定の参考とする目的で実施しました。

②対象者

介護や高齢者福祉に携わる事業所の職員（参加者 25 人）

③実施日時、場所

平成 29 年 10 月 25 日（水） 午前 10 時から正午まで
エコハウス 多目的室

④実施方法

4 グループに分かれ、テーマに沿って付箋等を使用して意見と解決のアイデアを出し合う。

テーマ 「最期までその人らしく住み慣れたところで過ごすために、課題として感じていること」

「課題を解決するために、こんな仕組みやサービスがあったらいいなと思うこと」

⑤実施結果

< Aグループ >

人材	
・ ボランティア育成 ・ ケアマネ不足によるプラン作成の問題 ・ 人材不足	・ 介護職・福祉職等の専門職の不足 ・ 介護の仕事を知る機会がない
	
アイデア	・ 介護の仕事の内容や魅力を伝える

制度（サービス）	
・ 2号の人が使いやすい資源 ・ 家族それぞれが問題を抱えている場合の支援 ・ 身よりのない人の支援 ・ 元気なうちに介護保険を知る	・ 制度と制度のあいだの問題点 ・ 夜間訪問サービスの充実 ・ 受診同行

相談・支援	
・在宅サービスのより上手な活用 ・認知症の方の独居生活の支援 ・要支援から要介護にさせない ・医療・介護・福祉まとめた相談支援 ・気軽に使用できるネットでの相談	・認知症の方が、今何がやりたいか知る機会 ・認知症の方をみている家族が相談できる場所 ・ご家族（介護者）が認知症（ケア）のことに知る機会 ・相談窓口の不足
	アイデア ・施設の空き部屋を利用してカフェ等を運営する。愚痴や独居の方の情報などを話すことができ、家族への支援にもつなげる
移動支援	
・交通手段の確保 ・自分で買い物に行けない、買い物難民 ・移動手段がなく、ひきこもる高齢者 ・公共交通機関で行きたいところへ行きにくい	・ひとりで生活する場合の、買い物・入浴など生活のサポート ・車の運転ができなくなると買い物などに行けなくなる
	アイデア ・サービス事業者の車両を使用して、店舗を回るバスを運行する ・病院受診支援 ・スーパーの移動販売 ・移動健康相談（血圧チェック）
地域	
・認知症の方を地域で支えるシステム ・ご近所のことがわからなくなっている ・若者が長期間ひきこもることで高齢者のひきこもりに変わっている	・喫茶店が減り、たまり場がなくなっている ・今まであった自治会、子ども会などの関わりがなくなっている ・低栄養になっている
望む生活	
・本心では自宅で過ごしたい ・本人と家族との意見の相違	・最期の迎え方について、本人と家族の認識が同じか

■まとめ

施設や家などの場所にかかわらず、その都度望む生活を支援したい。

課題は、行きたいところに行けない、施設の人材不足、相談先がないなど。それらに対して、買い物はスーパーが移動販売や送迎をする、Nーバスでは病院へ通いづらいため地域包括支援センターの出張相談を増やし、地域の健康チェックを月1回実施するなどの案が出た。

また、介護の仕事のバーチャル体験で、仕事の内容や魅力を伝えるという意見があった。

<Bグループ>

全体
・身よりのない人の葬祭支援 ・個人情報共有できる範囲がわからない（専門職でない地域の方など） ・ひとり暮らしで緊急時の連絡体制はあるが、自分でできるか不安

自助
・気にかけていることを当人に伝える ・もの忘れが多くなった ・健康に自信がない ・好きなことをして過ごしたいが、日常の雑事に追われる ・行く場所、用事など、生きがいになるものがなくなり、認知症にならないか心配 ・認知症になりたくないので、薬用療法以外の予防メニューやプログラムをやりたい ・自分の足で歩いて買い物や旅行に行ける体力を維持したい ・ひとり暮らしになったとき、他者とのコミュニケーションを取らずに楽しく生きていけるか ・ひとり暮らしで頑張りたい ・日常生活に支障が出始めているが、人の手を借りずに生活することが元気の源と信じている
➡ アイデア ・終活サロンを開く。心がまえや、さまざまな終活を話せる場所

公助
・免許証を返納すべき年齢、体力、視力になったが、足がなくなるのは困る ・近くのコミュニティサロンに行くのも大変で、近所の人を送迎してくれるが申し訳ない ・交通手段がなく、行きたい場所へ行けない ・巡回バスのルートや時間が不便で利用しにくい ・ネットスーパーの利用支援 ・市内の病院やスーパーを巡回するバス ・働きながら介護が継続できる支援（介護サービスの上乗せか地域での支え） ・医療と介護の連携が進むよう、夢ネットの発展 ・新しい情報が入らない ・情報がどうやったら行き届くか
➡ アイデア ・ワンコインサービスでネットスーパーの利用支援

共助
・人材不足 ・エレベーターがないアパートの2階より上に住んでいると、身体状況により外出できない
➡ アイデア ・ボランティア移送、乗り合い車 ・事業所や地域にステアエイド（階段昇降車）の購入補助をする

互助

- ・市内の老人ホームに傾聴ボランティアがもっと入るといい
- ・高齢者が元気なうちは、地域の役に立てる仕事を作り、人手不足の介護事業所と協力する
- ・楽しみややりたいことがないという方が多い
- ・時間にとらわれず話を聞けるといいが難しい
- ・転入してきた方は知り合いがいない。近くに集まれる場所がない

■まとめ

介護を受けていない人にも老後への漠然とした不安があるので、終活サロンをつくり、専門職も交えて自由に話せる場にしたい。元気で役に立ちたい人には、施設で簡単な仕事や話し相手をしてもらう。市内の病院やスーパーを巡回するバスの運行や、事故の問題もあるが地域の人同士で車の乗り合いができるといいし、Nバスも使いやすくしてほしい。高齢者はネットスーパーを使えないため、ネットスーパーの利用支援がワンコインサービスであるといい。エレベーターがないアパートが多く、事業所や団地にステアエイド（階段昇降車）を設置する費用補助がほしい。サロンなどの情報が必要な人へ届かないので、夢ネットを活用して、情報がスムーズに流れる仕組みがあるといい。

<C グループ>

住まい（居場所）	
自宅	
・自分の居場所を増やしたい	・自分の家で過ごすことにこだわる
・住まいの段差が多い、車いすが使えない	・一人の時間を安全に過ごす
地域	
・近所の人との交流（地域力）	・人の集まる場所に行くことは好きな様子
・地域の交流。独居で周囲とつながりがいい	・サロンとデイサービスの間のような場所
趣味を楽しめる場	
・たまには音楽を聴きに行きたい	・たまにはお酒を飲みたい
	アイデア
	・その人ができる役割 ・家族会や家族会支援の強化

移動手段・交通手段
・徘徊のある人でも散歩が続けたい ・行きたいときに買い物に行けない ・家族が忙しく、買い物へ行きたいが頼めない ・行きたいところがあるが、移動手段がない ・運転免許返納後の、車以外の移動手段 ・外出したいが一人では外出できない

おいしい食事	
・好きなものだけ食べ、栄養バランスが悪い	・食事がうまくとれない
・おいしい食事を誰かと一緒に食べに行きたい	・妻と同居だが夕食はコンビニ弁当のよう
医療	
体力	
・日中独居で、状態が悪い時に見守ってくれる人が家族と保険サービス以外にいない	・体力低下がみられる
・4～5歩歩くと息が荒くなる	・本人のADL低下が著しい
病院	
・病院にこだわり往診を受け入れない	・精神疾患の方の往診
・一人で病院に行くのは不安	
病気であるという自覚	
・いつ死ぬのかわからない	・病気が進行して重くなっているが自覚がない
・何の病気にかかるのかわからない	・本人が精神的な病気を持っている
 アイデア	・暮らしの保健室 ・わかりやすい医療を伝える市民講座
介護力	
家族の介護力の限界	
・家族の介護力に限界があり、うまく介護できない	・家族が疲れていて介護を続けることが難しい
	・家族の性格上、すぐに逆上する
生活・仕事	
・同居の家族が安心して仕事ができる	
・子育てと介護の両立が難しく、家族の疲労度が重くなっている	
 アイデア	・電話相談 ・訪問中の健康相談（家族）
不満	
・行政を嫌うため、うまく介入できない	・人が家に来ることを拒む
・ひとり暮らしで、他人に関わってほしくない	・介護サービス事業所が関わることを嫌がる
・隣近所と仲が悪い	・自分の命に他人からとやかく言われたくない
 アイデア	・相談センターの訪問強化
思い	
・本人の思いと家族の思いが違う	

気持ち

- ・おいしい、楽しい、嬉しいことに会う
- ・独居で寂しいときがある
- ・近所に話ができる人がいたらいい
- ・お客さんに来てほしい
- ・家族以外に本心を話せる人と出会いたい
- ・どうなりたいのかわからない
- ・本人の話していることが聞き取れず、うまくコミュニケーションできない



アイデア

- ・友だち、近所、家族できちんと話を聞ける人
- ・ボランティアから専門職につなげる

お金

- ・年金収入ではサービスに限られる
- ・死亡後の後始末をしてもらいたい



アイデア

- ・市民後見人
- ・身元保証

■まとめ

自宅にこだわる、出かける場所がほしい、趣味をやりたいなどは居場所につながる。居場所へ行くために移動手段の問題があり、出かけて好きな食事をしたいとなるが、命に関わる食事もあることから医療につながった。ほかに気持ちの問題や、解決が難しい不満もある。

不満については、相談センターが当事者のところへ訪問する案が出た。また、友人やボランティアが話を聞いて専門職につなげられれば居場所ができ、車を運転したい人が移動手段を提供したら生活できる。介護者には、電話相談や家族会の支援を強化する。医療に関する市民講座の実施や、くらしの保健室で健康診断をするなどして医療の知識を身近にしてほしい。

全体的に、いい居場所があれば生活が上手くいくのではないかとまとまった。



<D グループ>

自助	
知識不足	
・ 利用者の介護サービスの認識や知識不足	・ 小規模多機能が認識や理解されていない
予防	
・ 予防的な取り組み	・ 生活維持のための体力が以前に比べて低下している
・ ロコモ予防のため、運動習慣をつける	
依存	
・ サービス依存	・ 病院依存がある方は在宅への移行が難しい
 アイデア	・ サロンなどで市民公開講座の実施 ・ ボランティアによる体操で ADL（日常生活動作）を向上させる ・ 高齢者向け体操 ・ 更新時などに定期的な説明会

公助	
人材確保	
・ スタッフ不足。特に夜勤をやる人や夜間でも働ける人	
人材育成	
・ スタッフの知識不足	・ 介護職の医療知識が足りないこと
医・介・福連携	
・ 認知症疾患センターとの連携	・ 認知症・精神疾患の方が閉じこもりがちで治療が進まない
・ 医療機関との連絡・連携	
・ 専門職同士のつながりや研修	
 アイデア	・ 各事業所で日常生活サポートの人材確保 ・ 認知症実践者研修の開催 ・ 職種別育成プログラムの作成や交換研修の実施 ・ 定期的な勉強会を行い、全体の知識を向上させ、専門性を高める ・ 事業所同士の情報交換や定期的な報告会 ・ 医療職ネットワークの構築 ・ 病院と在宅の交流会

共助	
認知症支援	
・ 地域での認知症に対する理解	・ 認知症の方のひとり暮らし支援
外出支援	
・ バス停や駅が遠くて出かけるのが難しい	・ 車いすになったら外出できない。介護保険サービスが減っている
・ 外出の足がなく、家の外へ出ない人が多い	
・ N バスが不便だという声が多い	・ 送迎のための資源

買い物	
・ 自分で品物を見て買い物したいが、一人での外出が難しい ・ 買い物難民がいる	・ スーパーなどの商品の代行販売車の活動 ・ 買い物行きのバスの運行（Nバス等）
 アイデア	・ 周りの理解を深める ・ 認知症カフェの活用やキャラバンメイトの育成（小・中・高校生） ・ ライドシェア ・ デイサービス等の空き時間に車を効率的に使い移送サービス ・ 福祉有償移送サービスの充実 ・ 元気な高齢者に活躍してもらう ・ 住まいから歩いて行けるつどいの場 ・ 定員がなく、夜間も安心して過ごせるところ ・ 各集会所での出張講座

互助	
介護力	
・ 家族だけで介護を抱え込み、疲弊している ・ 家族の介護力の有無で違う ・ 介護力の不足 ・ 老々介護 ・ 介護者の持病	・ 独居高齢者世帯の方が増えている ・ 8050 問題 ・ 家族関係が希薄になってきている ・ 近くに家族がいることが必要
住まい	
・ ひとり暮らしの人への支援	・ 新しいマンション内での高齢者の暮らし
人付き合い	
・ 人のつながりやコミュニケーション不足 ・ 人とのコミュニケーションがうまくできない ・ 近所付き合いで顔が見えすぎる	・ 隣近所との交流がない ・ お互い様の思いも希薄になりがち ・ 家族以外で毎日会う人がいる
 アイデア	・ 介護者の交流会や介護方法の研修開催 ・ 家族の介護力アップの活動 ・ マンションの管理人や管理会社との連携 ・ マンションと協力して相談窓口をつくる ・ 趣味や得意とすることで人と人をつなぐ ・ 自治会、シニアクラブでの見守り

■まとめ

自助、互助、公助、共助と分類した。問題の解決については、元気な高齢者やほかの施設の送迎車を活用するなど、基本的に他者と連携を取って解決しようとしていることが面白いと感じた。知恵や力を貸し借りするシステムができるといいし、それに報酬があるとより促進されると思う。